



親子自然ウォッチング 2012

わんぱく遊び隊通信

No.114 2012年12月20日 発行

晚秋のお泊まり会！場所(洞爺湖中島およびネイバーハウス)
2012年10月27日(土・日曜日) 天気 くもり&雨
今回は初企画！船で洞爺湖の中島にわたってエゾシカ探しをしたり、ダッヂオーブンでアウトドア料理を作ったり、秋のひとときを楽しみました！

バス移動



バスレク

子どもクイズ
が大人気！

洞爺湖まではバスで2時間ほど。移動中はバスレクをしました。子ども出題のクイズなどもり上りました。

洞爺湖遊覧船

さあ
乗るぞ～目指す中島
をバックに！

記念撮影

ガイドさん
もいます

中島までの20分ほどの間に広い船の中を探検しました。展望台からのながめも最高！

遊覧船
楽しい～

洞爺湖到着

もうすぐ
上陸～！

ランチタイム

まずは
お昼ごはん

シカと草の鬼ごっこ

ふやし鬼じ
ゃないよ！

中島エゾシカの説明

中島に到着！ランチの後、鬼ごっこで一汗かいてからエゾシカを探しに森へ入りました。



餌付いたエゾシカを観察

小ささに
おどろき！

フキソウの群落

フキソウ
の実はほん
のり甘い

中島はもともとエゾシカのいない島、57年前に持ち込まれました。そのため自然のバランスはくずれ、森の植物は食べつくされています。



エゾシカ捕獲施設

これはシカ
のワナ

中島の大平原

エゾシカはお
らんかね～

エゾシカのフン

ペーっと吹
いて呼んで
みたけど…

エゾシカの姿を求めて大平原までやってきましたが、残念ながら見られず、エゾシカのフンやマヒワという小鳥の群れを観察して戻りました。

かえり道 フェリーまち

しまちゃん
といっしょ

フェリーまち

シカ骨と笛の
セッションシカ角を
囲んで

平原にはエゾシカ専用の大きなワナが、酪農学園大学などの研究チームが設置したものです。



北海道のエゾシカ問題と洞爺湖中島

少々かたい話におつき合いください 人間が必要な自然の恵みや機能を最近では「生態系サービス」と呼んでいます。例えば、日常あたり前に飲んでいる水や、吸っている空気などもそうです。また、自然環境の中で植物や動物、微生物など大小すべての生き物がお互いに影響しあって生きていることを「生態系」といい、このシステムの働き、つまり生き物たちの営みによって生態系サービスは支えられています。

自然環境や生き物たちの関係がよいバランスをとれていれば、生態系は長い期間そのサービスを私たちに与えてくれますし、壊滅的ではない限り、バランスが壊れても形を変えて回復する力を持っています。ですがここで2つ問題が。その回復には数百年と

長い年月がかかること、科学的なメカニズムが完全には解明されていないので、どう変化するのかわからないということです。

今回訪れた洞爺湖中島は、人の手が自然のバランスを壊した1つの事例です。以前、林床に広がっていたササ群落は、持ち込まれ増加したシカが食べつくし、今は跡形もありません。そのため、ササを利用していた小鳥は姿を消しましたし、地面が裸出した場所では木が枯れ始め、森林の荒廃が進んでいるようです。

エゾシカ問題における洞爺湖中島は、研究者の間では北海道の縮図とも捉えられています。今後の北海道や次世代へ継承すべき自然の恵みを改めて考えさせられる場所でもありました。

問題になっているシカやクマも、北海道の生態系になくてはならない構成員です。上手につき合っていきたいですね。 よね

発行・お問合せ 自然ウォッチングセンター

〒062-0922 札幌市豊平区中の島2条3丁目6-9カサデューキ中の島 52-102号 Tel : 011-823-2850 Fax : 011-823-2851
E-mail : wanpakuasobitai@tea.ocn.ne.jp URL : <http://homepage2.nifty.com/watching/>

後援：札幌市教育委員会 / この活動は、子どもゆめ基金（独立行政法人 国立青少年教育振興機構）の助成金交付を受けて行うものです。